



すぎなみ発！



ラウンドテーブルミーティングで学び合うう ～「地域活動のリアル」を事例に～

目 次

まずは理論を
「知りたい」
という方は
こちらから！

すぐにでも
「やってみたい」
という方は
こちらから！

1. はじめに
2. 「ラウンドテーブルミーティングで学び合う」って?
～この手法を使う理由と効果～
 - 2 - 1. なぜこれをするの？
 - 2 - 2. どんな効果があるの？
3. 参加する人の役割と体験談
 - 3 - 1. 語り手
 - 3 - 2. 聴き手
 - 3 - 3. ファシリテーター
4. 実際にやってみよう！
 - 4 - 1. 当日の流れと進め方のポイント
 - 4 - 2. 図解！ラウンドテーブルミーティング
 - 4 - 3. やることリスト～準備からふりかえりまで～
5. 資料編
 - 5 - 1. これまでの語り手のテーマ一覧
 - 5 - 2. ラウンドテーブルミーティングに関する参考文献

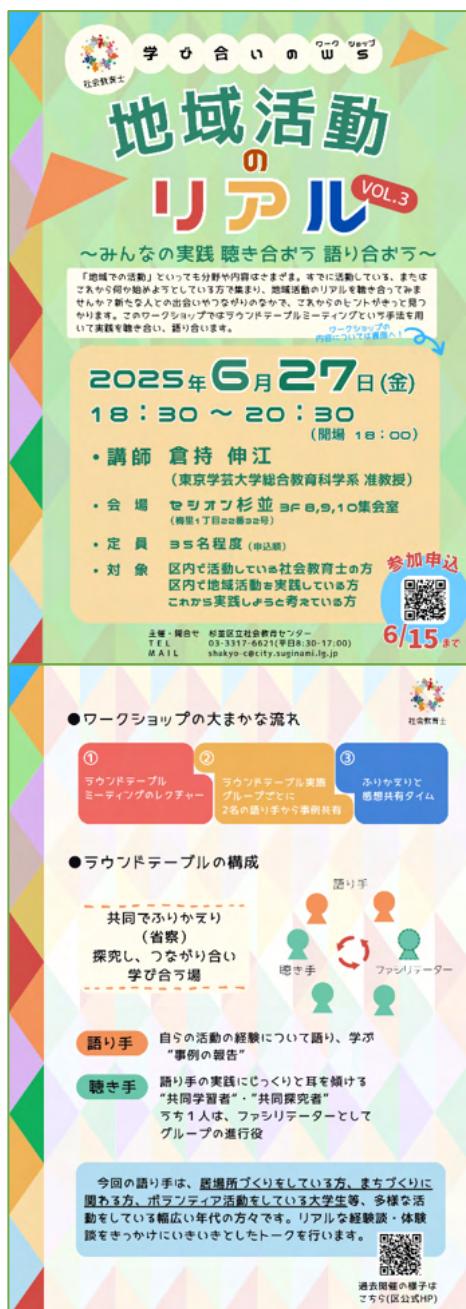
1. はじめに

杉並区立社会教育センターでは、ラウンドテーブルミーティングという手法を使って、学び合いのワークショップ「地域活動のリアル」(※)を開催しています。

この小冊子は、これまでの「地域活動のリアル」の取り組みを事例として、ラウンドテーブルミーティングの手法を使いながら、学び合いの場をつくってみたいという個人・団体・機関の皆さんに向けてポイントや参考になりそうな素材をまとめています。

これからも、実際にやってみた皆さんの声に学びつつ、より多くの人たちとの間で、学び合いの場が広がっていくことを願っています。

※令和7年6月実施の例



【目的】

- ①実際に地域活動をしている人々や社会教育士が、地域や分野を越え、横断的につながり学び合うこと
- ②社会教育や地域での活動がより充実し、また、新たな展開へとつながる機会をつくること

【対象】

- ▶区内で活動している社会教育士の方
- ▶区内で地域活動を実践している方
- ▶これから実践しようと考えている方

【参加人数】

50名程度

<内訳> 語り手16名 (2名×8グループ)

聴き手35名程度

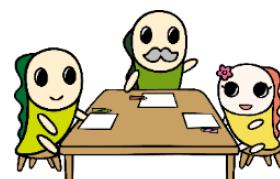
【講師】

倉持 伸江さん

(東京学芸大学総合教育科学系准教授)

※これまで開催した報告書など

詳細はこちから



2. 「ラウンドテーブルミーティングで学び合う」って? ～この手法を使う理由と効果～

2-1. なぜこれをするの?

地域での活動は、その内容、方法、場、期間、人や組織など多種多様ですが、主体的な参加を基本とする、グループや仲間とともに取り組むといった共通点もあります。一方で、どうやったら活動が活性化するか、継続・継承できるか、関わる人を増やせるか、などについては、相手や状況によって異なるため定まったスキルやノウハウはなく「これをやつたらうまくいく」という正解もありません。

さらに、長く活動を続けていくと、活動の本来の目的と実際の取り組みの間にズレが出てきてしまったり、メンバー間の意識や負担感などの差が大きくなってしまったりするものの、活動に深くかかわっているからこそ、こうした問題に気づけないことや、なかなか内部で解決するのが難しいこともあります。

また、自主的な活動や、有志の仲間や住民同士の活動は、限られた場や方法で行われていたり、地域や仲間同士の固有の課題だととらえられたりするため、身近に似たような活動をしていることを知らなかつたり、情報や困りごとを共有したり交流する機会がなかつたり、またその必要性を感じていなかつたりすることがあります。

ラウンドテーブルミーティングは、地域活動や社会教育活動に関わる人々の、学びとつながりづくりを目的としています。お互いの活動経験を持ち寄り、語ったり聴いたりすることで、実践のふりかえりから学ぶこと、次の活動へつなげていくこと、ネットワークをつくることを目指しています。主体的で多様な地域での活動を続けたり、広げたり、変えたり、つなげたりする力を培うために、お互いの実践事例を語り合い、聞き合い、学び合う、対話と共同探究の場が、ラウンドテーブルミーティングなのです。

2-2. どんな効果があるの?

お互いの地域における実践経験を持ち寄って少人数で語り合い・聞き合うことを通して、対話と共同探究に取り組むことで期待される成果は、次のようなことです。

① ふりかえり学ぶ —— 省察による学び

自分自身の実践経験を語ることは、これまでの取り組みを整理し、歩みをふりかえり、意味づけ、意識化することにつながります。対話を通して、自分自身も無自覚だった思いや価値に気づくこともあります。他の人の実践を聞くことで自分の実践にも新しい見方ができたり、「引き出し」が増えたりします。

経験を語ることで、活動の中でやってきたことの価値や意味に気づいたり、とらえ直したり、自分たちの活動の特徴や強み、課題を確認したりすることができます。自分自身や地域のさまざまな人の具体的な経験から学び、実践力が培われます。

② 活動にいかす —— 学びと活動のサイクル

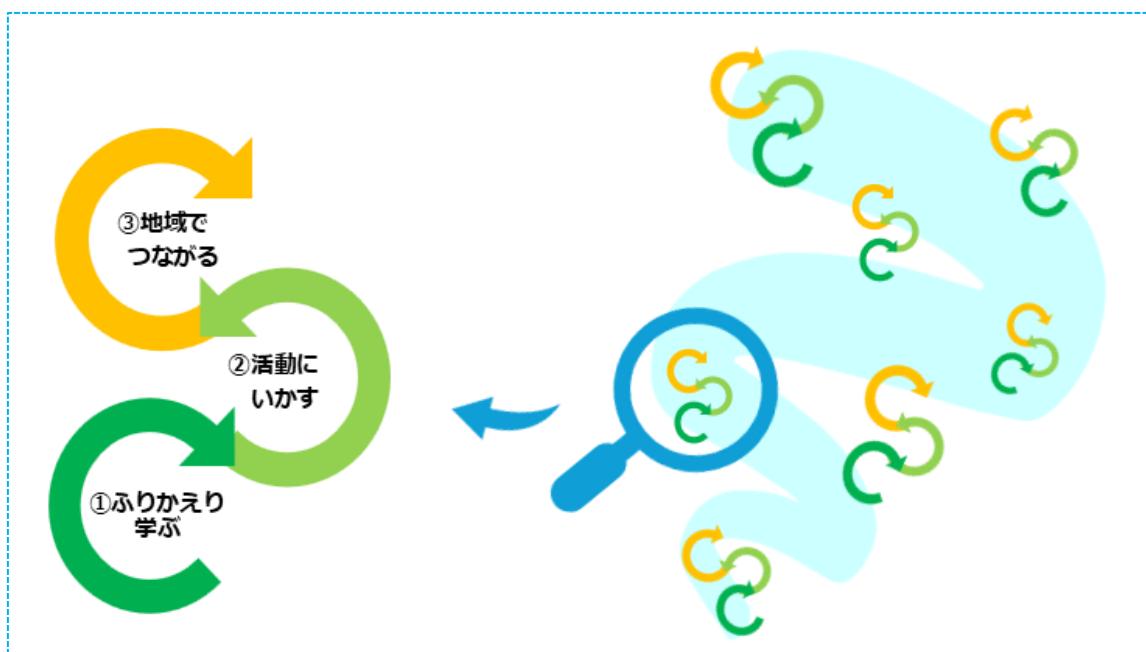
これまでの実践経験を省察することで発見した強みや価値・課題は、おのずと次の活動に向けたヒントや動機となります。対話と共同探究で得た気づきを現場に持ち帰り、次の活動で試してみることで、活動の変化が期待できます。

ふりかえりによって得た気づきや学びの成果を、活動に取り入れたり仲間と共有したりすることで実践が活性化したり、次のステップに自信をもって取り組むことができます。他の人の活動を聴いて刺激を受け、実際に活動を始める力となります。実践経験をふりかえり、実践し、またふりかえり……と繰り返すことで、実践を発展させながら学び続けることができます。

③ 地域でつながる —— 学び合うコミュニティの創造

試行錯誤の実践経験を共同探究することを通して、その苦労や成果を分かち合い、共感できる関係性が育ちます。異なる立場や視点で語り合い・聴き合うからこそ新たな発見が生まれ、応援し合うゆるやかな目に見えないつながりが生まれます。

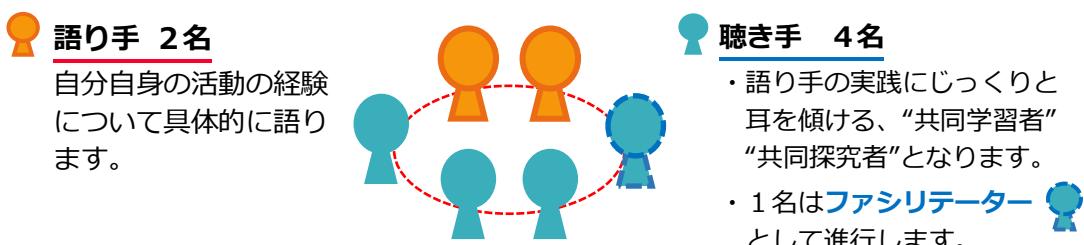
また、関心や興味などの共通点でいろいろな人とつながることができます。こうした学び合いと実践をベースとしたネットワークは、お互いの活動への刺激や励まし、助け合いを生み出し、学び合いや活動を続けるためのエネルギーを育み、地域コミュニティを支え創り出す力となります。



〈ラウンドテーブルミーティングでの学びの循環とその展開モデル〉

3. 参加する人の役割と体験談

参加者は、語り手・聴き手・ファシリテーターの3ついずれかの役割で関わります。
「地域活動のリアル」では、1グループ6名で、語り手2名、聴き手4名（聴き手のうち1名はファシリテーター）で構成しています。



3-1. 語り手

語り手2名の活動分野が異なるグループを作ると、多様な経験・観点などの出会い・学び合いが広がりやすいです。（1つの事例の取組時間：約30分）

- 前半（約15分）：語り手が自身の実践事例をじっくりと語ります。
- 後半（約15分）：語り手と聴き手が対話（質問などのやり取り）を通して実践事例を多様な観点から共同探究します。

① 語るときのポイント

- 経験を具体的に話しましょう。
 - いま取り組んでいること
 - これまで取り組んできたこと（自分自身の�験）
 - 実践や活動の中で得たことなど
 - これから取り組んでみたいと思うこと
- 抽象論や一般論、“べき論”にはならないようにしましょう。
- 結論やまとめ、「オチ」は全く必要ありません。



■語り手の体験談

自分で手に入れられる情報だけだとなかなか手詰まりになっている中、話し合いをする中で、新しい情報や視点を得られました。

参加する過程でこれまでの自分の活動をふりかえることができ、頭の整理になった。語り手として発表することでより客観的に捉えることができた。

3 – 2. 聴き手

聴き手は、3つの役割の中で最も大切な共同学習者です。

また、語り手の経験の意味や意義を共に探る、共同探究者でもあります。

聴くときのポイント

- 語り手に寄り添い、活動の展開やそこでの思いをじっくりと丁寧に、五感を使うなどしてからだ全体で「聴く」ことを心がけてください。
- 一方的なアドバイスや課題の指摘になってしまわないよう、注意してください。
- 地域における人や団体をつなぐ活動の意義や課題、面白さや難しさなど、語り手の話をもとに、お互いの経験から具体的に出し合い、探究し合いましょう。



■聴き手の体験談

今後地域活動をしたいと思っておりましたが、どうしたら実現できるかイメージがわいておりませんでした。このワークショップで活動されている方の話を聴き、自分の知らない地域活動がたくさんあることに驚き、勇気づけられました。まずはいくつかの活動にボランティアとして関わることから始めようと思います。

いろいろな人が様々な活動を活発に取り組んでいて、今の地域社会が成り立っているんだな、と感心しました。

自分の興味や関心などは一切考慮にいれずにグループ分けがされたことで、今まで聴いたことのない話を聴き合い話し合うことができとても楽しかったです。また、今実際に行われている実践をベースに話が進んでいくため、自分の活動につなげて考えていきやすいと感じました。

初めての参加でしたが、普段知り得ない語り手さんの活動の話が新鮮でした。自分の仕事につながる情報も得られて有意義でした。

3 – 3. ファシリテーター

「地域活動のリアル」では、ファシリテーターは、グループでの学び合いが豊かに展開していくよう、進行・促進・時間調整などの支援を行います（ファシリテーション）。

⑥⑥ ファシリテーションのポイント

その1 ~語り合い聴き合う雰囲気づくり~

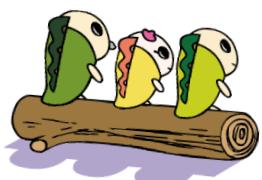
- 質問や自分なりの受け止めなど、年齢や立場、経験に関係なくメンバーが積極的に発言できるよう促します。
- 語り手の話に触発されて、聴き手が自分の経験を話すのは構いませんが、あくまで語り手が主役。語り手の話からそれてしまう場合は、柔らかく制止しても構いません。
- 質問や意見が出ない場合は、ファシリテーターが率先して口火をきりましょう。

その2 ~対話による共同探究を深める~

- 語り手の実践を尊重し、聴き手と一緒に理解を深めていくことができるようやり取りを見守り、時に問い合わせかけます。
- 問題点を一方的に指摘したり、解決策やアドバイスを求めたりしないよう促します。
- 地域での人や団体をつなぐ活動の意義や目的、面白さや難しさなどを、グループのメンバーと共有し、お互いの経験から具体的に考え合えるようにします。

その3 ~今後の実践に向けて~

- 話し合いに結論やまとめは必要ありません。
 - 時間に余裕があれば、
 - 一人ひとりがこれからどうしたいか
 - どんなことを試してみたいか
 - 実践のふりかえりや共同探究から得た気づきをどのように活かしてみたいか
- などを、語り合えるようにします。



■ ファシリテーターの体験談

私のグループの語り手は、年齢も活動内容も全く異なる2人でした。2人目のお話が終わって、質問や感想を聞き合うタイミングで、聴き手の方から「活動はちがっても大切にしていることは同じですね！」という声が挙がりました。それは「人とのつながり」だと皆が感じて、自然と拍手が起きました。素敵な瞬間でした。

4. 実際にやってみよう！

4-1. 当日の流れと進め方のポイント



▼「地域活動のリアル」実施時

時間	内 容
5分	「地域活動のリアル」の主旨説明
10分	ラウンドテーブルミーティング 進め方の確認
10分	アイスブレイク
30分	ラウンドテーブルミーティング①
10分	休憩
30分	ラウンドテーブルミーティング②
15分	全体のふりかえり
30分	交流タイム



ラウンドテーブルミーティング

進め方の確認

「ラウンドテーブルミーティングの資料」をもとに、参加者同士で進め方を確認します。

「地域活動のリアル」では講師からのレクチャーを行っています。

アイスブレイク

プロフィール（名前、所属する団体・組織、自分の好きな場所など）をもとに、1人あたり1分くらいで自己紹介します。

また、所属する団体・組織が特にない人も、今行っていることや関心などを紹介します。

ラウンドテーブルミーティング①

1人目の語り手のお話を、まずはグループで丁寧に聴き合います。前半15分はじっくりと語り手の実践に耳を傾け、後半15分はお互いに語り合い共同探究します。

ラウンドテーブルミーティング②

2人目の語り手の実践を聞き合い、語り合います。進め方は①と同じです。

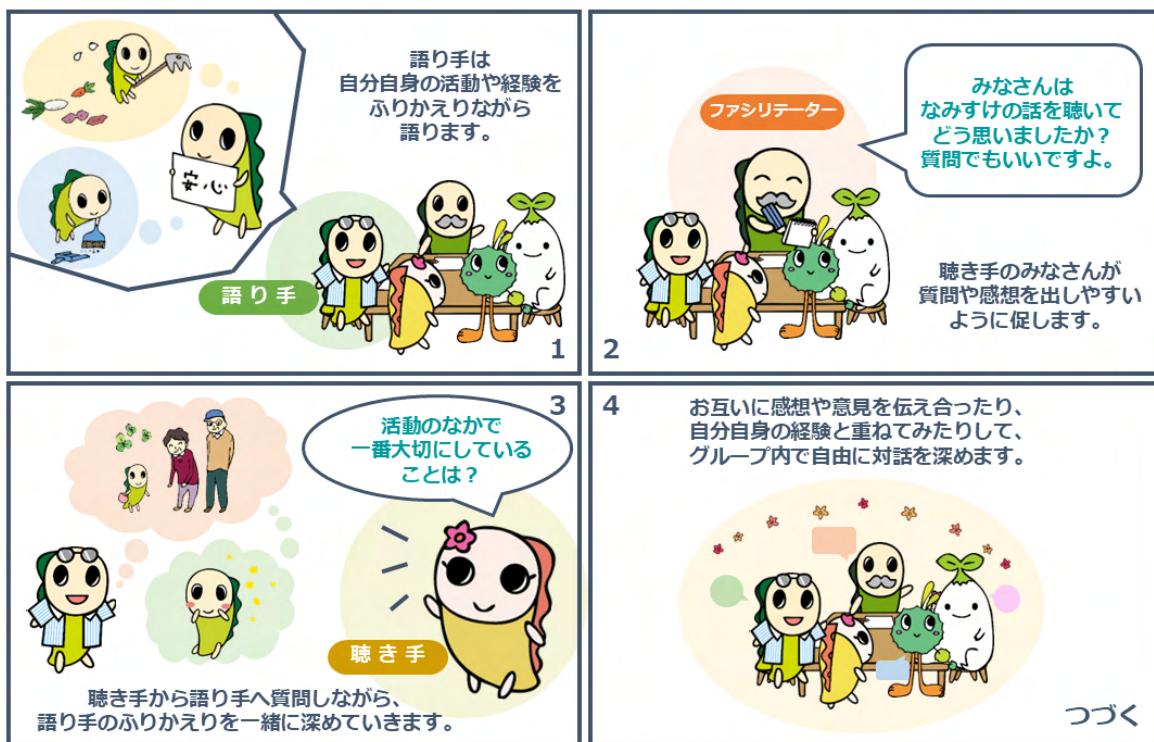
交流タイム

参加者同士が自由に話せる機会として設定しています。

ラウンドテーブルミーティングで同じグループにならなかった場合でも、お互いの活動や関心を自由に聞き合ったり、ネットワークがゆるやかにつながったりしていきます。

また「みんなの掲示板」をつくり、他グループの語り手資料や、活動紹介のチラシなどを掲示しています。

4-2. 図解！ラウンドテーブルミーティング



●語り手をお願いするため……

- ・地域のイベントに参加し、つながる
- ・語り手をやってくれた人から紹介を受ける
- ・社会教育士のネットワークを広げる
- ・面白そうな人や事柄にアンテナを張る

●少規模でも、できます！

- ・準備は、もっとコンパクトにできる
- ・チラシがなくても、口コミで募集できる
- ・アンケートや、やってみたいカードなどを用意しなくても、一緒にふりかえればOK！
- ・定期的な開催がしやすく、活動やチームの活性化も図れるかも



●会議で使うのも有効です！

- ・立場の異なるメンバー同士の相互的な意見交換がしやすい
- ・参加者が当事者意識を持ちやすく、アイディア出しや共創に向いている
- ・意見や本音などを言いやすい
- ・多様な視点が得られやすい
- ・参加者の関係性が深まりやすい



4-3. やることリスト～準備からふりかえりまで～

開催の規模や必要性に
応じて変えてみてね！



▼「地域活動のリアル」の準備とふりかえり

	✓ やること	詳 細
開 催 前	会場予約	
	語り手の依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「語り手シート」の作成を依頼 ・作成するまでの説明資料を送付
	聴き手の募集(開催周知)	<ul style="list-style-type: none"> ・申込フォームの作成 ・チラシの作成・印刷 (申込フォームの2次元コードを掲載) ・SNSへの投稿
	ファシリテーターの依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・前回実施時の「やってみたいカード」を参考に 聴き手の中から声かけ
	語り手の作成資料の収集	
	当日配布物の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・語り手シート※ ・語り手＆テーマのリスト※ ・講座全体の次第 ・参加者の席札 ・写真撮影のお知らせ ・グループ分け三角柱 ・やってみたいカード <p>※印のフォーマットは、 右記2次元コードからダウンロードできます。</p> 
	参加者のグループ分け	活動の分野や種類、年代、知り合いの有無などを参考にして分ける
	リマインドメールの送付	語り手・聴き手・ファシリテーターへ送付
	当日に向けた準備	配布物の印刷など
開 催 後	やってみたいカードの集計	今後の開催のために、やってみたい役割 (語り手・聴き手・ファシリテーター)の希望をとっておく
	アンケートの集計	
	ふりかえり	

5. 資料編

5-1. これまでの語り手のテーマ一覧



「ドロパッ！」を中心にした地域と新技術の橋渡し ドローンでつなぐ、街と地域の人々	子どもの笑顔あふれる街、 子どもの居場所を増やしたい
地域と学校のつなぎ役として ～“傍流”から見た地域おこし～	「身近なボランティア活動」 ～結果的に「芋づる式」に拡がってしまう～
里親リクルート実践と「質の高い家庭養育」 をめざした支援について	杉並まちづくり交流協会の活動 ～人のつながり・多様性を活かす！～
小さな八百屋と農家さん ←→ 商店街とお客様	「ナナメ」の関係として 地域の子どもたちに関わる
フラット ～障害者の地域参加について考える～	済美教室の活動を通じて学んだこと、 身についたことしてみました！
ノンケミカルLifeをもっと身近に もっと健康に♪	楽しむ時間 ～ボランティア、趣味、そして…～
子どもと私と地域の関わり合い —児童館での活動を通して—	「ジョブ活」で地域の人と人をつなごう ～チャレンジド杉並の活動～
少年野球コーチ歴いつの間にか18年 ～振り返って思うこと、そして悩むこと～	「半公共空間」づくりをめざして 「ネオスナック」に挑戦
「自分の暮らしをヒラキ、 まちに家のように暮らす」くらし方	私の地域活動あれこれ
こんど神明中にあそびにいきませんか？	ネイチャーゲームに携わって
無いから作る 居場所づくり	杉並にラジオを作るということ
“いいこと”は良いことなのか？	「てらこや四宮」に参加して
寺社巡りイベントを開催して	知的障害者とのかかわりの中で
未来への平和な途を探る	世代を越えて平和な未来を！
人と地域を繋げる	「トロールの森」に参加
福祉ボランティアの活動	事業は人なり、人は財なり
気象災害を減らすために	若者×地域活動
地元の自治会（町会）活動に関わって	ボランティアレベルでの地域活動

5-2. ラウンドテーブルミーティングに関する参考文献

- ▶日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う：社会教育が提案する新しい専門職像』
東洋館出版社、2009年
- ▶日本社会教育学会編『地域を支える人々の学習支援』東洋館出版社、2015年

ラウンドテーブルミーティングでの学び合いを
いろいろな場面でやってみませんか？
“わたしたちはこんなふうにやってみました”
という事例も、お待ちしています！！



〈受付時間〉月～金曜日
午前8時30分～午後5時

✿ ラウンドテーブルミーティングについてのお問い合わせ先

杉並区立社会教育センター

[住所] 〒166-0011

杉並区梅里 1-22-32 セシオン杉並 2 階

[電話] 03-3317-6621

[FAX] 03-3317-6620

[E-mail] shakyo-c@city.suginami.lg.jp

社会教育センター
の詳細はこちら！

